

若年女性がんサバイバーシップに関する 国内文献レビュー —研究対象に若年女性を含む文献から—

那須明美*¹ 松本啓子*² 矢澤美香子*³

要 約

近年、がん治療の進展により、若年女性においてもがんサバイバーは増加している。本研究では、若年女性のがんサバイバーシップに関して国内文献を概観し、その苦悩と支援の現状に着目して、課題を検討することを目的とした。医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) と国立情報学研究所論文情報ナビゲーター CiNii を用いて、「癌サバイバーシップ」をキーワードとして文献検索を行った。会議録、解説、特集等と男性や老年期に関する文献と年齢、性別が明示されていない文献、がんに関係しない文献を除外し、14件の原著論文を対象に、がんサバイバーの苦悩と看護ケアの現状についての概要を類似性に着目して整理した。その結果、若年女性がんサバイバーシップにおける苦悩は、【死への恐怖と命の不確かさの中で生きること】にあり、【身体的、精神的、社会的、実存的な苦痛を抱えた生活】の中で、【就労継続への困難】、【セクシュアリティの苦痛】が抽出された。さらに、その苦悩に対する支援は、【がんと共に肯定的に生きる意味を見出す支援】【症状マネジメント】【就労継続に向けた支援】【ピアサポートによる情緒的支援】であり、【看護職者の能力向上】が課題であった。今後は、若年女性がんサバイバーシップケアの充足のために、妊孕性に関する支援をはじめ、がんと共に肯定的に生きる意味を見出す看護支援について実践的検討が課題であると考えられる。

1. 緒言

がん医療の進歩の結果、がんサバイバーは年々増加している。がん患者の QOL への関心も高まり、「がんを発症し診断された時から、その生を全うするまでの過程を、いかにその人らしく生きるか」といった“Cancer Survivorship”が重視され¹⁾、がんと共に生きる時代となった。生殖可能な年齢にある若年女性がんサバイバーにとって、ボディイメージの障害やうつ病の発症と関連している妊孕性喪失への懸念²⁾などライフコースに関わる女性特有の心理的課題は多い。若年女性がんサバイバーが「自分らしさと尊厳」を持って、がんと向き合い、がんと共に、女性として、妻として、母親としてその人らしく生活するために、看護職者には高い看護実践能力が求められる。若年女性がんサバイバーシップ研究の文献レビューは少なく、妊孕性喪失への支援を含む看護支援の充足の

ために、その苦悩を知り、支援の現状を把握することは意義深い。その人らしい生き方であるサバイバーシップについては、海外文献からの報告³⁾はされているが、医療事情や社会的背景に大きく影響されるため、わが国のがんサバイバーシップの実情を知る必要があると考えた。そこで、若年女性がんサバイバーシップに関する国内の研究文献を概観し、その苦悩と支援の現状に着目し、課題を検討することを本研究の目的とする。

2. 方法

2.1 調査方法

医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) では「癌サバイバーシップ/TH or がんサバイバーシップ/AL」を、CiNii では「がんサバイバーシップ」をキーワードとして検索した (2016年8月実施)。会議録、解説、

*1 川崎医科大学附属病院 看護部

*2 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科

*3 武蔵野大学大学院 人間科学部 人間科学科

(連絡先) 那須明美 〒701-0192 倉敷市松島577 川崎医科大学附属病院

E-mail : sybst464@yahoo.co.jp

表1 若年女性がんサバイバーシップに関する文献リスト

文献番号	タイトル	著者, 掲載年	調査方法	対象	概要
13)	がん体験者の適応に関する研究の動向と課題	砂賀と二渡, 2008	文献レビュー	文献 190 件	がんサバイバーの適応に関する研究内容は「がんの進行や治療がもたらす苦痛や困難への対処」「困難に立ち向かうための意思力の獲得と自己変容プロセス」「がんとともに生きる体験とその意味づけ」「心理社会的適応へのサポート」「看護介入のためのツール開発とその効果」「終末期がん患者と家族のスピリチュアリティと死の受容・悲嘆のプロセス」であった。今後は、長期的な適応の視座で、サバイバーシッププロセスを支援する看護介入方法やサポートシステムの確立に向けた研究が課題であった。
14)	「がんサバイバーのコントロール感覚」の概念の特性	今泉と稲吉, 2009	文献レビュー	文献 38 件	がんサバイバーの「コントロール感覚」を維持・回復へと促すための看護支援の構築が課題であった。
4)	低位前方切除術後患者に排便機能障害が及ぼす心理的影響とその対処	辻と鈴木, 2009	半構成的面接調査	がんサバイバー20名 (女性 35～81 歳 6 名含む)	術後の変化に関する諦めといった病気に対する受け止め方とがんに対する不安があった。 排便障害に関する情報提供と患者自ら対処方法を見出せる援助, がんに対する不安の援助, 家族以外にも思いを表出できるサポート体制, がんサバイバーシップを高めるために他患者と交流する場を提供することの必要性が示唆された。
6)	乳がん体験者の心理的適応とコーピングに影響を与える要因の文献検討	上田と雄西, 2011	文献レビュー	文献 64 件	心理的適応とコーピング方略に影響を与えている要因に「不確かさ」があり, 初期診断時には, 「再発・転移の恐れ」が関与していた。
15)	がんサバイバーのためのサポートグループの効果 情緒状態の経時的変化より	中村ら, 2011	質問紙調査	がんサバイバー140名 (女性 30～74 歳 107 名含む)	サポートグループの情緒状態への長期的な効果が認められた。
7)	がんサバイバーシップにおける回復期にある乳がんサバイバーのがんと共に生きるプロセス	砂賀と二渡, 2013	半構成的面接調査	がんサバイバー19名 (女性 41～59.6 歳 19 名全て)	がんとともに生きるプロセスは, いつ再発・転移するかわからない不確かさの中にあった。がんとともに生きるプロセスは, がん罹患の意味を見出し, 現状を肯定的に意味づけながら価値観を転換するプロセスであった。 個人に必要な情報提供, コーピングスキル獲得に向けた教育的介入, 心理的支援, 継続的な医療体制整備が必要であった。
8)	ストレングスの概念分析 がんサバイバーへの活用	岩本と藤田, 2013	文献レビュー	文献 22 件	身体的, 精神的, 社会的, 実存的な苦痛を抱えた生活をしており, その生活は苦難に満ちていた。
16)	若年がんサバイバーをケアする看護師の構え	森と藤田, 2014	半構成的面接調査	看護師 11 名	若年がんサバイバーをケアする看護師の構えが豊かになることは, 質の高いケアにも繋がる。
12)	若年がんサバイバーの希望を支える看護ケア エキスパートナースの実践より	石井と藤田, 2014	半構成的面接調査	看護師 11 名	がんサバイバーの希望を支える看護ケアでは, 希望の存在を捉え, 希望の実現可能性を見極めた希望を支える取り組みを実践し, 状況のモニタリングをし続けることであった。
11)	乳がんサバイバーのレジリエンスを促進する要素	砂賀と二渡, 2014	半構成的面接調査	がんサバイバー24名 (女性 30 歳代～70 歳代 24 名全て)	がんサバイバーのレジリエンスを促進するには, 納得した治療選択ができる知識と, 再発や合併症を予防するための対処方法について情報を提供し, 社会資源を活用しながら自己の存在意義や自己価値を高めていく支援が必要とされていた。
9)	がんの診断を受け外来通院する東北地方に住むがんサバイバーの就労の実態	松田ら, 2015	質問紙調査	がんサバイバー66名 (全体で 31 歳～78 歳 女性 38 名含む)	就労の実態では大幅に就労者数が減少し, 約半数が職業転換をしており, 患者自身や世帯収入も減少している。
5)	看護師のがんサバイバー体験と職務継続要因	土屋, 2015	半構成的面接調査	サバイバーI～III期にある看護師 15 名 (24 歳～54 歳女性 15 名全て)	告知の衝撃を乗り越え手術に向かい, 術後は命の期限を実感し, 治療に伴う苦痛と闘いながら復職を果たし生き方の転換を図るようになるが, 再発や死への不安がつきまとう思いがあった。 看護師のがんサバイバー体験は, 役割の曖昧さからくる危うさや立場の不確かさを感じていた。闘病に影響する人的資源に職場仲間があり, 職務継続を後押しするものは経済的必要性や仕事の自覚, 人との関係性, 体験を活かした支援であり, 治療継続可能な職場体制の要求があった。
3)	がんサバイバーシップケアの研究の動向に関する英字文献レビュー	三浦ら, 2015	文献レビュー	文献 23 件	サバイバーシップケアは, 治療の後遺症や晩期症状のマネジメント, 再発や2次がんのリスクの早期的対処を必要とする。 教育上の課題は, 継続教育の推進と医学や看護学の基礎教育や大学院教育のカリキュラムを増やすことである。
10)	女性生殖系がんサバイバーのセクシュアリティに関する文献研究	黒澤と飯岡, v2016	文献レビュー	文献 21 件	将来への不確かさや再発の不安に伴う性的欲求の減少, パートナーの性的関心の低下, 生殖能力の喪失があった。 不妊の状況で悩みを抱えるものは, 性機能変化, 更年期症状でより大きな苦痛を経験していた。 セクシュアリティに関するケアの対象は患者およびパートナーであり, ケア内容は治療に伴うセクシュアリティの変化に関する情報提供および医療者と患者で対話する場の設定, 個人の対処法への支援, パートナーと医療者間での密なコミュニケーションを組み合わせることが効果的であった。

特集等と男性や老年期に関する文献と年齢、性別が明示されていない文献、がんに関係しない文献を除外し、最終的に14件の看護領域の原著論文を対象とした(表1)。

分析方法は、対象文献を掲載年、調査方法、対象を整理した。さらに、がんサバイバーの苦悩と支援について記されてある概要を、論旨及び文脈の意味を損ねないよう最大限配慮し抽出した。抽出した概要はコーディングシートに記載し、苦悩と支援の内容別に抽象度を上げた二次コード化を行ない、二次コードを類似性に着目して分類し、ネーミングすることで文献を整理した。分類の過程では、医学博士の学位を持つ看護学教授のスーパーバイズを受け、信頼性、妥当性の確保に努めた。

2.2 用語の定義

本研究では、若年女性がんサバイバーの心理的課題である妊孕性喪失の不安や後悔などの苦悩に対峙する可能性を含む女性がんサバイバーに焦点化するため、若年女性を「生殖可能な年齢から壮年期にある女性」と定義する。また、がんサバイバーシップとは、「がんを発症し診断された時から、その生を全うするまでの過程を、いかにその人らしく生きていくこと」¹⁾と定義する。

2.3 倫理的配慮

著作権の侵害にあたらないように、引用・参考文献名および引用・参考箇所を明確に記述した。

3. 結果

文献検討の結果、文献掲載年は2008年から始まり、年に0から3件の文献が存在した。研究方法は、文献レビュー6件、半構成的面接調査6件、質問紙調査2件であった。研究対象は文献6件、がんサバイバー5件、看護師2件、がんサバイバーの看護師対象が1件であった。概要の分類は、カテゴリーを【 】で、

サブカテゴリーを< >で示し、引用文献の概要中でのカッコは、「 」で統一表示した。その内容について説明する。

3.1 若年女性がんサバイバーの苦悩

若年女性がんサバイバーの苦悩の視点から鑑みると、術後の変化に関する諦めといった病気に対する受け止め方とがんに対する不安があった⁴⁾。また、告知の衝撃を乗り越え手術に向かい、術後は命の期限を実感し、治療に伴う苦痛と闘いながら復職を果たし生き方の転換を図るようになるが、再発や死への不安がつきまとう思いがあった⁵⁾。また、心理的適応とコーピング方略に影響を与えている要因に「不確実さ」があり、初期診断時には、「再発・転移の恐れ」が関与していた⁶⁾。さらに、がんと共に生きるプロセスは、いつ再発・転移するかわからない不確かさの中にあり⁷⁾、【死への恐怖と命の不確かさの中で生きる】苦悩があった。

さらに、がんサバイバーは、【身体的、精神的、社会的、実存的な苦痛を抱えた生活】をしており、その生活は苦難に満ちていた⁸⁾。就労の実態では大幅に就労者数が減少し、約半数が職業転換をしており、患者自身や世帯収入も減少している現状があり⁹⁾、看護師のがんサバイバー体験は、役割の曖昧さからくる危うさや立場の不確かさを感じ⁵⁾、【就労継続への困難】が抽出された。また、がんサバイバーの【セクシュアリティの苦痛】に、将来への不確かさや再発の不安に伴う性的欲求の減少、パートナーの性的関心の低下、生殖能力の喪失があった。不妊の状況で悩みを抱えるものは、性機能変化、更年期症状でより大きな苦痛を経験していた¹⁰⁾。

3.2 若年女性がんサバイバーシップにおける支援

支援の視点からは、がんと共に生きるプロセスは、がん罹患の意味を見出し、現状を肯定的に意味づけながら価値観を転換するプロセスであった⁷⁾。が

表2 若年女性がんサバイバーの苦悩

カテゴリー	サブカテゴリー
死への恐怖と命の不確かさの中で生きる	術後の変化に関する諦めとがんに対する不安 ⁴⁾ 命の期限の実感と再発や死への不安がつきまとう ⁵⁾ 不確実さと再発転移の恐れ ⁶⁾ 再発・転移するかわからない不確かさの中で生きる ⁷⁾
身体的、精神的、社会的、実存的な苦痛を抱えた生活	身体的、精神的、社会的、実存的な苦痛を抱えた生活は苦悩に満ちている ⁸⁾
就労継続への困難	就労転換や収入が減少すること ⁹⁾ 役割の曖昧さからくる危うさや立場の不確かさ ⁵⁾
セクシュアリティの苦痛	将来への不確かさ・再発の不安に伴う性的欲求の減少、パートナーの性的関心の低下、生殖能力の喪失 ¹⁰⁾

表3 若年女性がんサバイバーシップにおける支援

カテゴリー	サブカテゴリー
がんと共に肯定的に生きる意味を見出す支援	現状を肯定的に意味付けられる心理的支援, 継続的な医療体制整備 ⁷⁾
	がんに対する不安の援助 ⁴⁾
	自己の存在意義や自己価値を高めていくレジリエンス支援 ¹¹⁾
	希望を支える取り組み ¹²⁾
症状マネジメント	サバイバーシッププロセスの支援とサポートシステムの確立 ¹³⁾
	症状マネジメントと再発などの早期発見 ³⁾ パートナーを含めたセクシュアリティ支援 ¹⁰⁾
就労継続に向けた支援	治療継続可能な職場体制の要求 ⁵⁾
ピアサポートによる情緒的支援	サポートグループの情緒状態への意義 ¹⁵⁾
	家族以外のサポート体制や他患者との交流の場提供 ⁴⁾
看護師の能力向上	患者との援助関係を築く看護師の能力 ¹⁶⁾ 教育の充実 ³⁾

んに対する不安の援助⁴⁾や個人に必要な情報提供, コーピングスキル獲得に向けた教育的介入, 心理的支援, 継続的な医療体制整備が必要であった⁷⁾. また, がんサバイバーのレジリエンスを促進するには, 納得した治療選択ができる知識と再発や合併症予防の対処方法についての情報を提供し, 自己の存在意義や自己価値を高めていく支援が必要とされた¹¹⁾. 一方, がんサバイバーの希望を支える看護ケアでは, 希望の存在を捉え, 希望の実現可能性を見極めた希望を支える取り組みを実践し, 状況のモニタリングをし続けることであった¹²⁾. がんサバイバーの適応に関する研究は「がんの進行や治療がもたらす苦痛や困難への対処」「困難に立ち向かうための意思力の獲得と自己変容プロセス」「がんとともに生きる体験とその意味づけ」「心理社会的適応へのサポート」「看護介入のためのツール開発とその効果」「終末期がん患者と家族のスピリチュアリティと死の受容・悲嘆のプロセス」であった. 今後は, 長期的な適応の視座で, サバイバーシッププロセスを支援する看護介入方法やサポートシステムの確立に向けた研究が課題であった¹³⁾. これらのことから, 【がんと共に肯定的に生きる意味を見出す支援】が抽出された.

サバイバーシップケアは, 治療の後遺症や晩期症状のマネジメント, 再発や2次がんのリスクの早期的対処を必要とし³⁾, 排便障害に関する情報提供と患者自ら対処方法を見出せる援助の必要性が示唆された⁴⁾. また, セクシュアリティに関するケアの対象は, 患者およびパートナーであり, ケア内容は治療に伴うセクシュアリティの変化に関する情報提供および医療者と患者で対話する場の設定, 個人の対処法への支援, パートナーと医療者間での密なコ

ミュニケーションを組み合わせることが効果的であった¹⁰⁾. さらに, がんサバイバーの「コントロール感覚」を維持・回復へと促すための看護支援の構築が課題であった¹⁴⁾. これらの【症状マネジメント】が支援として抽出された. また, 治療継続可能な職場体制の要求があり⁵⁾, 【就労継続に向けた支援】が抽出された. さらに, サポートグループの情緒状態への長期的な効果が認められ¹⁵⁾, 家族以外にも思いを表出できるサポート体制や他患者と交流する場を提供することが必要とされ⁴⁾, 【ピアサポートによる情緒的支援】が抽出された.

若年がんサバイバーをケアする看護師の構えが豊かになることは, 質の高いケアにも繋がるとされ¹⁶⁾, 教育上の課題は, 継続教育の推進と医学や看護学の基礎教育や大学院教育のカリキュラムを増やすことであり³⁾, 【看護職者の能力向上】が抽出された.

本研究の検索では, 「若年女性」and「がんサバイバーシップ」での検索文献はなかった.

4. 考察

若年女性のがんサバイバーシップに特化した文献がなく, 近年の掲載年推移や研究方法から, 研究の進展への変化はない. 日本の看護師は治療完遂後に提供されるサバイバーシップケアの機会が少なく³⁾, サバイバーシップ研究への関心の低さが窺える.

若年女性がんサバイバーの苦悩は, がんの診断, 告知から死への恐怖に対峙し, いつ再発・転移するかわからない命の不確かさの中で生きることになり, 身体的, 精神的, 社会的, 実存的な苦痛を抱えた生活に苦悩が満ちていた. さらに, 就労継続への困難さがあり, 不妊がセクシュアリティの苦痛を強くしていた. その苦悩に対する支援は, がんと共に

生きる現状を肯定的に意味づけ、その人らしく生きることを支える支援が重要であり、症状マネジメントや就労継続に向けた支援、ピアサポートによる情緒的支援であった。がん患者は意味の探索によって自分らしさをつくり変え、意味を見出すことで心理的適応を果たしていくとされている¹⁷⁾。若年女性がんサバイバーのその人らしく生きるライフコースにおいて、大きな苦悩である不妊については、治療の後遺症の症状マネジメントでもある妊孕性喪失への支援が重要と考える。妊孕性温存療法の実現により将来への希望を持つことで、がんと向き合い、辛い治療に耐えるこころ支えとなった経験も報告されている^{18,19)}。わが国の長期生存がんサバイバーに特化した看護が新たな課題であるとされている¹¹⁾ことから、女性として未来への希望に繋がる妊孕性に関する長期的支援が、生きる意味を見出す支援の一つになり、心理的適応に繋がると考える。しかし、がん治療と妊孕性への取り組みは端を発したところであり²⁰⁾、喫緊の若年女性がんサバイバーシップ研究の課題であると考え。患者およびパートナーを対象に、十分な情報提供と対話の場を設定し、個人に応じた妊孕性の支援を、密なコミュニケーションを通じて行うことが効果的である。このような妊孕性に関する支援をはじめ、がんと共に肯定的に生きる意味を見出す長期的支援が、その人らしく生きるプロセ

スへの支援となるために実践的検討を行ない、より一層の看護職者の能力向上が課題である。

5. 結論

若年女性がんサバイバーシップに関して文献検討を行ない、その苦悩は、【死への恐怖と命の不確かさの中で生きること】にあり、【身体的、精神的、社会的、実存的な苦痛を抱えた生活】の中で、【就労継続への困難】、【セクシュアリティの苦痛】があった。さらに、その苦悩に対する支援は、【がんと共に肯定的に生きる意味を見出す支援】【症状マネジメント】【就労継続に向けた支援】【ピアサポートによる情緒的支援】であり、【看護職者の能力向上】が課題であった。

本研究では、若年女性がんサバイバーシップ研究文献が皆無であったことから、がんサバイバーシップ研究の文献の中から、対象者に若年女性が含まれる国内の原著論文を対象としたことに研究の限界がある。今後は、総説や資料、研究報告を含め、海外文献からの検討を行なう必要がある。また、若年女性がんサバイバーシップケアの充足のために、妊孕性に関する支援をはじめ、がんと共に肯定的に生きる意味を見出す看護支援についての実践的検討が課題であると考え。

付 記

本研究は、武蔵野大学大学院人間学研究科(通信教育部)に提出した修士論文の一部を加筆修正したものであり、第48回日本看護学会慢性期看護で一部発表した。

文 献

- 1) Kenneth D. Miller, 金容壺, 大山万容訳, 勝俣範之監訳: がんサバイバー—医学・心理的・社会的アプローチでがん治療を結いなおす—. 第1版, 医学書院, 東京, 2012.
- 2) Gorman JR, Su HI, Roberts SC, Dominick SA and Malcarne VL: Experiencing reproductive concerns as a female cancer survivor is associated with depression. *Cancer*, 121(6), 935-942, 2015.
- 3) 三浦浅子, 田中久美子, 細田志衣: がんサバイバーシップケアの研究の動向に関する英字文献レビュー. 福島県立医科大学看護学部紀要, 17, 1-12, 2015.
- 4) 辻あさみ, 鈴木幸子: 低位前方切除術後患者に排便機能障害が及ぼす心理的影響とその対処. 日本医学看護学教育学会誌, 18, 34-38, 2009.
- 5) 土屋八千代: 看護師のがんサバイバー体験と職務継続要因. 日本統合医療学会誌, 8(2), 52-62, 2015.
- 6) 上田伊佐子, 雄西智恵美: 乳がん体験者の心理的適応とコーピングに影響を与える要因の文献検討. 日本がん看護学会誌, 25(1), 46-53, 2011.
- 7) 砂賀道子, 二渡玉江: がんサバイバーシップにおける回復期にある乳がんサバイバーのがんと共に生きるプロセス. *The Kitakanto Medical Journal*, 63(4), 345-355, 2013.
- 8) 岩本真紀, 藤田佐和: ストレングスの概念分析—がんサバイバーへの活用—. 高知女子大学看護学会誌, 38(2), 12-21, 2013.
- 9) 松田芳美, 田中久美子, 渡邊由香里, 佐藤郁美, 戸室真理子: がんの診断を受け外来通院する東北地方に住むがんサバイバーの就労の実態. 日本がん看護学会誌, 29(3), 73-78, 2015.
- 10) 黒澤亮子, 飯岡由紀子: 女性生殖器系がんサバイバーのセクシュアリティに関する文献研究. 聖路加看護学会誌,

- 19, 3-12, 2016.
- 11) 砂賀道子, 二渡玉江: 乳がんサバイバーのレジリエンスを促進する要素. 日本がん看護学会誌, 28(1), 11-20, 2014.
 - 12) 石井歩, 藤田佐和: 若年がんサバイバーの希望を支える看護ケアエキスパートナースの実践より一. 高知女子大学看護学会誌, 39(2), 32-41, 2014.
 - 13) 砂賀道子, 二渡玉江: がん体験者の適応に関する研究の動向と課題. 群馬保健学紀要, 28, 61-70, 2008.
 - 14) 今泉郷子, 稲吉光子: 「がんサバイバーのコントロール感覚」の概念の特性. 日本がん看護学会誌, 23(1), 82-91, 2009.
 - 15) 中村めぐみ, 紺井理和, 川名典子: がんサバイバーのためのサポートグループの効果—情緒状態の経時的変化より一. がん看護, 16(4), 525-531, 2011.
 - 16) 森歩, 藤田佐和: 若年がんサバイバーをケアする看護師の構え. 高知女子大学看護学会誌, 40(1), 68-76, 2014.
 - 17) 塚本尚子, 船木由香: がん患者の心理的適応に関する研究の動向と今後の展望—コーピング研究から意味研究へ—. 日本看護研究学会雑誌, 35(1), 159-166, 2012.
 - 18) 橋本万住子, 池田牧: 不妊治療中に乳がんと診断された患者の体験—不妊治療の継続を希望した2名の語りより一. 日本生殖看護学会誌, 9(1), 45-51, 2012.
 - 19) 竹原祐志, 青野文仁, 加藤恵一: 妊孕性温存療法の実際—卵子凍結—. 鈴木直, 竹原祐志編, がん・生殖医療—妊孕性温存診療—, 第1版, 医歯薬出版, 東京, 239-247, 2013.
 - 20) 矢ヶ崎香, 小松浩子, 森明子: 若年乳がん女性のがん治療と妊孕性の意思決定支援に対する看護師の認識. 日本生殖看護学会誌, 14(1), 21-29, 2017.

(平成30年8月9日受理)

Review about the Cancer Survivorship of Young Females

Akemi NASU, Keiko MATSUMOTO and Mikako YAZAWA

(Accepted Aug. 9, 2018)

Key words : young female, cancer survivorship, review

Abstract

Progress in the recent cancer treatment has allowed the number of young female cancer survivors to increase. We intended to examine the problem that of the present conditions of the suffering and the support for young female cancer survivors and searched for related domestic documents. Documents search was conducted utilizing both Ichushi-Web (Ver.5) and CiNii, with “cancer survivorship” as the keywords. The document of conference minutes, expository comments, feature articles, and documents not related to cancer or dealing with males and old age and the documents where age and sex were not stated clearly were excluded. From fourteen original articles, summaries on the distress of cancer survivors and the present state of nursing care were extracted and sorted out, with a focus on their similarity. As a result, the categories for the distress of young female cancer survivors included the following: **【Living with the fear of death and uncertainty for life】**, **【living with physical, mental, social and existential pain】**, **【Difficulty of continuing employment】**, and the **【Pain of sexuality】**. Furthermore, the support means for these distress factors included the following: **【Support for finding the purpose to live a positive life with cancer】**, **【Symptom management】**, **【Support for the working continuation】**, and **【Emotional support through the peer support system】**. The issue that needed to be dealt with was **【Nurses’ ability to improve】**. We think it is necessary to consider nursing support to find more affirmative meaning to live with a cancer, including support for becoming pregnant characteristics from a viewpoint to be valid like the person.

Correspondence to : Akemi NASU

Nursing, Kawasaki Medical School Hospital

Kurashiki, 701-0192, Japan

E-mail : sypst464@yahoo.co.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.28, No.1, 2018 47 – 53)